

木育 MOKUIKU KAWARABAN かわら版

知ろう、使おう、広げよう、みやぎの木

木育かわら版は宮城県森林環境税が使われています

CONTENTS

■ ひなた箱完成	1
■ モデル園振り返り	2
宮崎工業高校	
■ 生徒向け林業・木材産業見学ツアー 事後学習会	3
■ 都城木青会木育勉強会	4

ひなた箱完成！

指導：松井 勅尚 氏（木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授）
吉田 理恵 氏（ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師）
モデル園：めぐみ保育園（宮崎市）・四季の森こども園（日南市）

令和2年度から年少児・年中児と進めてきた「みやぎ木育プログラム」も、いよいよ年長児対象。
モデル園の2園が、この一年を通し取り組み、完成しました。取り組みの様子や感想などを紹介します。

めぐみ保育園

めぐみ保育園では、9月17日（土）に保育参観でひなた箱制作のダバ打ちまでを行い、そのあとは、日常保育の中で制作の時間を設け、完成させました。

◆工夫したこと、感じたことなど

『何のために作るのか？』を保護者の方にも理解してもらいたため、パネルシアターで説明しました。また、制作工程も、区切って区切って丁寧に説明しました。」
「スコヤなど新しい道具もあり、正しい使い方を保育者がしっかり理解した上で指導しないといけないと思いました。」
「木育プログラムを通して体幹など運動機能を整えることにも繋がることが実感できました。」

◆先生方から

「完成することは大事ですが、道具の正しい使い方、子どもの成長について良い方法を伝え、大人が「正しいやり方をしてね。」と言うと素直に聞いてくれます。」
「道具は人智が蓄積された文化であり、それを伝えるのが型です。道具のことも体験しながら、大切にしていけることを学んでいきます。子どもに向かっていくようで、大人の教育でもあります。子どもの成長を見て、大人も学んでいくことを願います。」

四季の森こども園

四季の森こども園では、毎週木曜日の14時～14時40分の間を木育ひろばとして、ひなた箱制作を進めました。毎回、保育者2名と地域サポーターの方2名程に来てもらい、園児のサポートを行い完成させました。

◆工夫したこと、感じたことなど

「制作を進める上では個人差があり、出来る子はどんどん進めて良いのか、1回とめてやった方が良いのか悩みました。」
「ボンドの量の加減が大事だなと思いました。」
「床に台を置くなど、机の高さを調整しながら進めました。」
「ノコギリが上手な園児は、ゲンノウ打ちも上手であると感じました。」
「毎回、地域サポーターの皆さんは、常に子どものことを気にかけてくださり、木育ひろばを楽しみにしていました。」

◆先生方から

「制作している園児の様子が、他の園児から見える環境だと良いかもしれせん。」
「早く出来ることよりも、どう工夫したらいいのかのプロセスの方が大切です。」
「子どもたちの成長ために重要な作業は丁寧にすすめ、地域サポーターの皆さんには、負担のない方法で作業などお願いしてください。多くの大人の眼が唯あるだけで、安全管理上においても大切で有難いことです。」



箱の側面に子どもたちの手形を押しました。



箱の側面にタブノキの取っ手をつけました。



めぐみ保育園(宮崎市)

大変だったこと

「副教材の紙芝居がなかった時は、導入が大変でした。」
「大人の言葉を子どもたちが理解できず、戸惑っていました。」

地域サポーターの方々との関わり

「うちの園はお寺なので地域の方と繋がりがやすかったです。日程をお知らせしたら、地域の方を誘って来てくれました。」
「ほぼ同じメンバーの方が来てくれたおかげで、時間が経つにつれ、子どもとの信頼関係ができていきました。」



「今、新たな年中さんで箸づくりをしているが、少し削っただけですぐに『終わった』と言ってきます。年少のプログラムを飛ばしていたのでそうなったかもしれません。段階を踏むことが大事だと実感しました。」

子どもたちの成長

「食事中の姿勢がよくなったように感じました。」
「日常保育の中で段階を踏んで指導したため、子どもたちは姿勢について意識を持つようになりました。」

保育者の感想

「ノコギリなど一見危ない道具でも正しい使い方をすればケガをしないし便利であることを、子どもたちに教える過程は大事であることを感じました。」
「スケジュール的に厳しいこともありましたので、今後は園によって取り組み方を変えてもよいと思いました。」
「今後の子どもの成長のためにも担い手確保という点でもよい取り組みだと思います。」

ひなた箱進捗確認とモデル園の振り返り

指導：松井 勲尚 氏（木育実践研究者・元岐阜県立森林文化アカデミー教授）
吉田 理恵 氏（ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師）

日時：令和5年2月2日(木) 10:00～12:00 場所：めぐみ保育園(宮崎市)
13:30～15:30 場所：四季の森こども園(日南市)

参加者：川添園長先生、高橋先生、木脇先生(めぐみ保育園)
中山園長先生、徳尾先生、吉永先生、藤澤先生、谷口先生、甲斐先生(四季の森こども園)

ひなた箱の最終進捗確認と、モデル園として3年間活動してきたこれまでの振り返りました。

モデル園の目的：

みやざき木育プログラムの実践と教材
開発および地域サポーター養成

四季の森こども園 (日南市)

大変だったこと

「保育のなかにどう組み込んでいくか悩みました。」
「ものを大事にする子とできない子がいるので、もの大切さをどう伝えたいのか思案しました。」

地域サポーターの方々との関わり

「最初はサポーターの方の名簿を作成していたが、重荷になると思い来れる人が来る自由参加型に変えました。」
「木育教室の日付や曜日を毎回お知らせしないといけないので、木曜日の14時を『木育の時間』として設けました。」
「サポーターの方々の存在は助かりました。ケガをしないように見守ってくれました。」
「最初は緊張していたが、子どもからサポーターへの要望を言えるような関係が築け、関わりがより密になりました。」

地域サポーターの方の感想

「紙芝居のクオリティと子どもたちの反応が印象的でした。」
「幼い時から取り組むことで技術の向上に驚きました。これからも参加したいです。」



子どもたちの成長

「忍耐力がつきました。年中の箸づくりのように変化がみえづらいものはすぐに『終わった！』と言っていた子どもも、年長のひなた箱では黙々と削れるようになって成長を感じました。」
「年長の女の子が木を見るときに匂いを嗅ぐ場面がみられるようになりました。」

全体を通しての感想

「子どもたちのやる気や物を大事にする気持ちがこれから一生続けばいいなと思っています。木育で学んだ考え方(地域との関わりや何のための活動なのか)を木育以外にも活用しています。」
「DIYでは学べない樹木の特性や環境のことについて知れたことは、園の財産になると思います。」

宮崎工業高校生徒向け 林業・木材産業見学ツアー事後学習会

日 時:令和4年11月15日(火)13:25~15:15

場 所:宮崎県立宮崎工業高校(宮崎市)

参加人数:生徒33名、企業代表3名

・(株)松岡林産 代表取締役 松岡 明彦氏 ・都城木材(株) 取締役 五十嵐 友梨子氏 ・ランバー宮崎協同組合 生産事業部総括次長 森實 裕美氏

10月に実施した見学ツアー先の企業の方を学校にお招きし、学んだことを各班ごとに発表しました。また、その後に意見交換会を実施しました。

1 (株)松岡林産

▶実際に見て分かったこと
「高性能林業機械を多数導入することで、作業員の安全、作業の効率化、低コスト化に取り組んでいる。」
「地理空間情報やICTロボットなどの先端技術を活用し、森林施業の効率化など需要に応じた生産を可能にするスマート林業を行っている。」
「伐って、使って、植えて、育てる循環型林業を行っている。」
「環境への取り組みを積極的に公開し、木や森のすばらしさ、自然の大切さを伝える活動に取り組んでいる。」

2 都城木材(株)

▶実際に見て分かったこと
「少量多品種、オーダーメイド型のものづくりに取り組み、一般住宅から大規模建築まで信頼品質の建築用木材を生産している。」
「ヒノキ、スギ、広葉樹を主軸に山林から製材・乾燥・チップまで木材にまつわる一連の生産を行っている。」
「柱や梁を挽いた後、残った材で板を挽き、さらに薄い板はスノコや箱の材料として製材しており、廃棄物を少なくするため、無駄なく木材を利用している。」

3 ランバー宮崎協同組合

▶実際に見て分かったこと
「プレカット加工は、設計図などによりCADからCAMに転送されたデータに従って木材の長さ、幅、高さなど正確に測定する。」
「木材が腐ったり、シロアリに食べられたりしないように木材の耐久性を高め、劣化を遅らせるための保存処理(湿式注入、乾式注入)を行っている。」
「特殊加工をするロボットMPS-54は19種の刃を持っており、ロボット自身が刃を付け替えながら行っている。」

4 質疑応答

▶(株)松岡林産
「伐倒の時に一番気を付けていることは何ですか？」
→手入れが行き届いていない現場は、かずら(ツタ)がある。かずら(ツタ)は上で繋がっていて倒そうと思ったら引っかかってしまい、折れたり、違う方向に倒れる場合があるので、一番気を付けています。
「機械を一人前に使えるようになるには何年かかりますか？」
→個人差もあるが、大体3年です。木のどこが重心になっているか等経験が必要になるので、それを習得するのに3年くらいかかります。
▶都城木材(株)
「1日にどれくらい丸太を加工に使いますか？」
→1日1,000m³使います。径24cm×4mの丸太だと1,000本程度です。
「他社にないこだわりは何ですか？」
→腕のいい職人がおり、良い製品を作ってくれます。また、良い丸太を入れてくれる仲間がいます。
▶ランバー宮崎協同組合
「保存処理によって、どのくらい木材はもちますか？」
→処理されているものは、約

10年とされていますが処理していないものは、状況にもよりますが、半年程だろうと思います。

5 感想

「使用者が使いやすく、早く使用できる木材になるまで、どのような機械や技術が施されているかを知りました。こういった木材のこだわりが信頼されていることに繋がっているのだと感じました。」
「木材1つ1つにたくさんの時間と手間がかかっていることを学びました。」

木材産業界向け勉強会 都城木青会木育勉強会

講師：吉田 理恵 氏（ぎふ木育推進員・岐阜県立森林文化アカデミー非常勤講師）
日 時：令和4年12月8日（木） 18:00～20:00
場 所：都城市未来創造センター2階会議室（都城市）
参加者：17名

都城木青会の会員より『木育カフェ』の手法を学びたい、と要望があり、講師の来県に合わせ実施されました。

木工と木育の違い

木育カフェを学ぶ前に、“木工”と“木育”の違いを、吉田先生の考える定義で学びました。

“木工”とは、木の工作で作り方を指導するもので、目で見て確認できる範囲のものであるのに対し、“木育”とは、木の工作に教育がセットとなっており、どの地域で育った木なのか、誰が育てた木なのか、など、材料を見ただけでは分からない部分を伝えることであることを共有しました。

木育カフェを学ぶ

木育カフェとは松井先生が考案された新しい手法で、「ワールドカフェ」という対話手法のメリットを取り入れながら、飲み物の代わりに木の教材を用い、『カフェ』のようなリラックスした雰囲気の中で参加した全員の意見を集める話し合いの方法です。少人数に分かれたテーブルで話し合うテーマを3つ程度用意して対話を行い、テーマが変わるごとに席替えをしてメンバーを入れ替えます。各テーブルに一人「店長」役を設けテーブルを固定し、店長は席替えされるごとに前述のテーマで話し合われた参加者の意見を共有します。木育カフェは1つのテーマにつき10分から15分で席替えがあり時間の制限があるため、使用する教材や作る工程が煩雑なものでないようするなど工夫が必要であり、また話し合うテーマは段階的・意図的に深めるようにします。そのため木育カフェを企画運営する人には、カフェの目的や3つのテーマ設定・教材設定など、場を切り盛りしていく力量と木材・教材・制作に関する知識技術などが問われます。



木育カフェを体験

都城木青会が令和4年11月20日（日）にまちなか広場にて木工体験イベントを行った時の教材をテーマに進めました。

・テーマ1

「この木箱の良いところを挙げてください」

・テーマ2

「この木箱を見ただけでは分からない情報を教えてください」

・テーマ3

「あなたのお仕事でこの木箱に関係することを教えてください」



木青会が伝えたいこと

- ・宮崎県スギ素材生産量が31年連続で日本一
 - ・伐期がきた木は使ってまた植えることが大事
 - ・木は50～60年で二酸化炭素を吸収してくれなくなる
 - ・木青会には様々な木材会社の人がいる
素材生産業、製材所、家建てる人、鋸くず屋さん、家具屋さん、森林の計画を立てる人、フローリング屋さん、椎茸屋さんなど
- 木育カフェで出てきた情報は組み立て次第で、木育講座で使えることを確認しました。・木青会が実施する木育講座は、県の長期計画（施策）に沿ったものであること・木青会が実施する木育講座は学校現場でも通用する構成であること・人材育成を行っているという意識、これらを参加者で共有しました。

勉強会を終えて～参加者の感想～

- ・これまでは木工作品を作ることが目的で、作る達成感だけを目標にしていたような気がする。子どもの人材育成という考えがなかったもので、目からウロコでした。木にたずさわる仕事はカッコイイ、働いてみたいと思ってもらえるような木育を意識したいです。
- ・地域の歴史をたどると、木が絡んでくると思うので、歴史の勉強からしたいと思います。
- ・木育の進め方、一つの話から広がるきっかけをつくる大切さ、伝える難しさ、知った時の驚きをもう一度味わいたいです。木の伝え方でネタが増えることを感じました。子どもに興味を持つ



木育ネットワーク部会とは

豊かな森林を次世代に引き継いでいくには、県民一人ひとりが、木材の良さや利用することの意義について理解と認識を深め、県民全体で県産材の地産地消に取り組むことが重要であることから、みやざき木づかい県民会議を平成25年2月に設置し、木づかい運動を進めてきました。

木づかい運動を進めるうえでは、子どもたちを中心に木に触れ親しむ機会や、森林、林業、木材、資源循環について分かりやすく伝える機会を創出する木育活動を進めることが非常に大切であることから、木育に積極的に取り組む企業・団体・行政などの参画による木育ネットワーク部会を設置しました。

■発行 宮崎県森林林業協会 ■編集 miyamokku

■事務局 みやざき木づかい県民会議 木育ネットワーク部会（宮崎県森林林業協会・宮崎県山村・木材振興課みやざきスギ活用推進室）

■住所 〒880-0802 宮崎市別府町3番1号 宮崎日赤会館2F ■TEL 0985-27-7682 ■FAX 0985-25-2398



木に触れて、
木と遊び、
木を学ぶ